

2012年11月30日 全5頁

Indicators Update

10月鉱工業生産

生産は4ヶ月ぶりの上昇、先行きの生産計画も強気

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2012年10月の生産指数は、前月比+1.8%と4ヶ月ぶりの上昇となり、市場コンセンサス(同▲2.0%)を大きく上回った。製造工業の実現率は2010年8月以来のプラスとなっており、今回の鉱工業生産は想定外に良い内容であった。在庫指数は前月比+0.3%と3ヶ月ぶりに上昇したものの、在庫率指数は同▲1.8%と2ヶ月ぶりの低下となった。
- 製造工業生産予測調査によると、2012年11月の生産計画は前月比▲0.1%と減少が見込まれているものの、12月には同+7.5%と増加に転じる見込み。10月の生産を押し上げた電子部品・デバイス工業が11月、12月ともに大幅な増加を見込んでいることに加え、情報通信機械、輸送機械では12月には前月比二桁の増加を見込んでいる。素材業種に関しても12月は軒並み増産を見込んでおり、12月の生産計画は総じて強気の見通しとなっている。
- 生産の先行きに関しては、エコカー補助金終了の影響で生産を押し下げていた輸送機械に底打ちの兆しが見られることもあり、悪化には徐々に歯止めがかかるとみられる。生産と連動性が高い輸出数量は依然悪化傾向が続いていることから、製造工業生産予測調査で見込まれている急激な回復は想定しづらく、幅をもってみる必要があると考えるが、海外経済の持ち直しに伴って、生産は年明け以降増加基調に向かうと考えている。

鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2012年							
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
鉱工業生産	1.3	▲0.2	▲3.4	0.4	▲1.0	▲1.6	▲4.1	1.8
コンセンサス								▲2.0
DIR予想								▲1.8
生産者出荷	0.5	0.6	▲1.3	▲0.9	▲3.1	0.2	▲4.3	0.0
生産者在庫	4.3	2.0	▲0.7	▲1.2	2.9	▲1.6	▲0.9	0.3
生産者在庫率	4.4	6.9	▲3.7	4.2	3.7	▲2.3	4.2	▲1.8

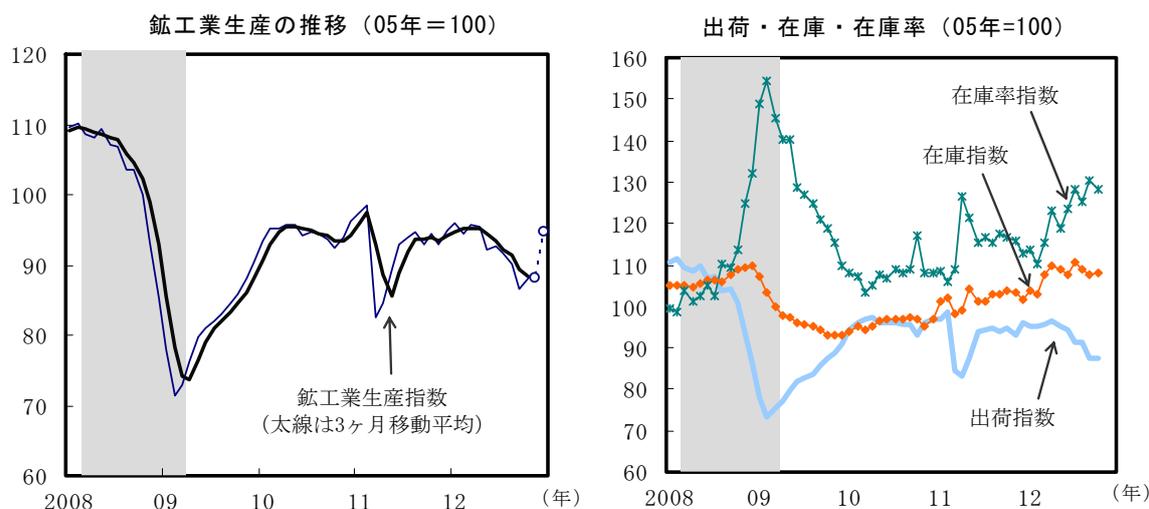
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は4ヶ月ぶりの上昇

2012年10月の生産指数は、前月比+1.8%と4ヶ月ぶりの上昇となり、市場コンセンサス(同▲2.0%)を大きく上回った。製造工業の実現率は2010年8月以来のプラスとなっており、今回の鉱工業生産は想定外に良い内容であった。在庫指数は前月比+0.3%と3ヶ月ぶりに上昇したものの、在庫率指数は同▲1.8%と2ヶ月ぶりの低下となった。製造工業生産予測調査にみる生産計画は、11月は前月比▲0.1%と減少するものの、翌12月には同+7.5%と大幅な増加を見込んでおり、先行きについても強気な生産計画となっている。

生産・出荷・在庫の推移(季節調整値)



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シェードは景気後退期。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

電子部品・デバイスが大幅増加

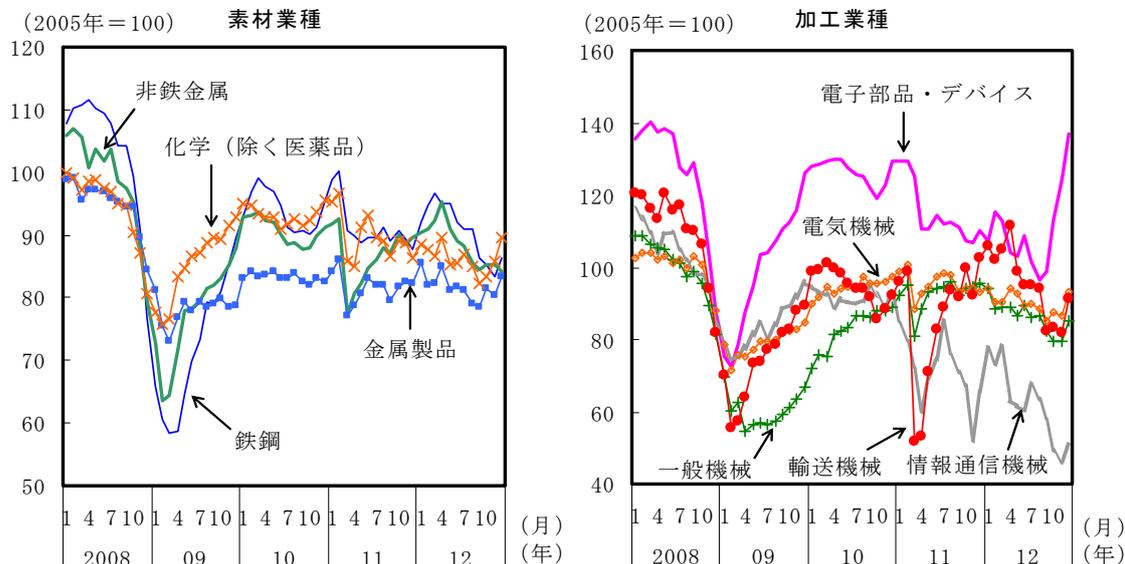
10月の生産を業種別に見ると、全16業種中、8業種が前月から上昇した。今回、生産への押し上げ寄与が大きかったのは電子部品・デバイス、金属製品、輸送機械である。

電子部品・デバイスは前月比+14.7%と2ヶ月連続の上昇となった。内訳を見ると、出荷が大きく伸びた、「モス型半導体集積回路(メモリ)」や、「アクティブ型液晶素子(中・小型)」の生産が増加している。また、「アクティブ型液晶素子(大型)」では、出荷が減少するなかで生産が増加しており、在庫調整が一巡してきた可能性が示唆される。金属製品は前月比+4.1%と2ヶ月ぶりの上昇となった。主な押し上げ要因となったのは「橋りょう」であり、復興需要が押し上げに寄与したとみられる。輸送機械は前月比+1.1%と6ヶ月ぶりの上昇に転じた。前年比では▲12.3%となっており、生産水準は低いものの、エコカー補助金終了の影響で大きく落ち込んだ輸送機械の生産は下げ止まった格好。

製造工業生産予測調査によると、2012年11月の生産計画は前月比▲0.1%と減少が見込まれているものの、12月には同+7.5%と増加に転じる見込み。10月の生産を押し上げた電子部品・

デバイス工業が11月、12月ともに大幅な増加を見込んでいることに加え、情報通信機械、輸送機械では12月には前月比二桁の増加を見込んでいる。素材業種に関しては12月は軒並み増産を見込んでおり、12月の生産計画は総じて強気の見通しとなっている。

主要業種の生産推移



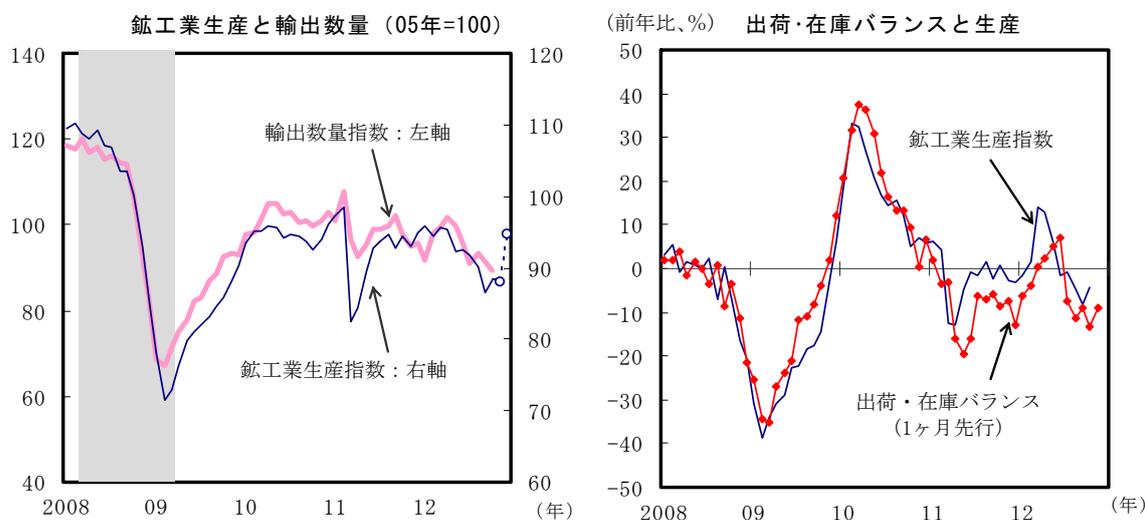
(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

生産は悪化に歯止めの兆し、年明け以降持ち直しへ

生産の先行きに関しては、エコカー補助金終了の影響で生産を押し下げている輸送機械に底打ちの兆しが見られることもあり、悪化には徐々に歯止めがかかるとみられる。生産と連動性が高い輸出数量は依然悪化傾向が続いていることから、製造工業生産予測調査で見込まれている急激な回復は想定しづらく、幅をもって見る必要があると考えるが、海外経済の持ち直しに伴って、生産は年明け以降増加基調に向かうと考えている。

出荷・在庫バランスと生産見通し



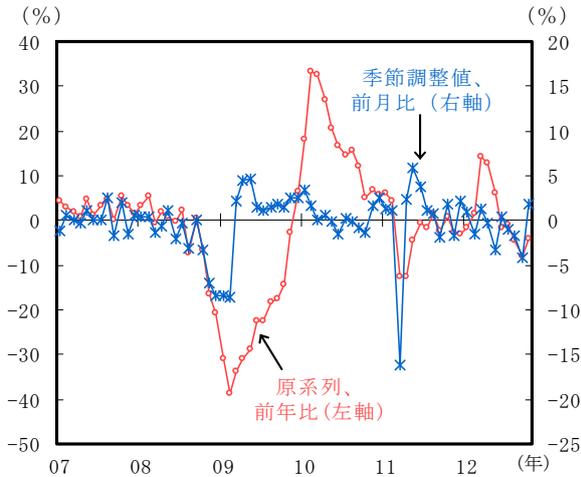
(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シャドローは景気後退期。

(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

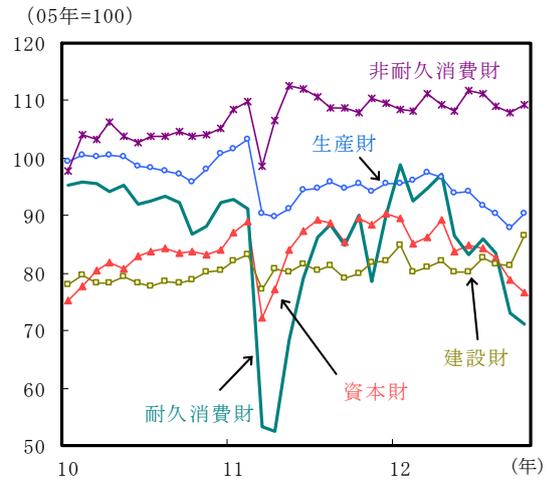
概況

鉱工業生産指数の変化率

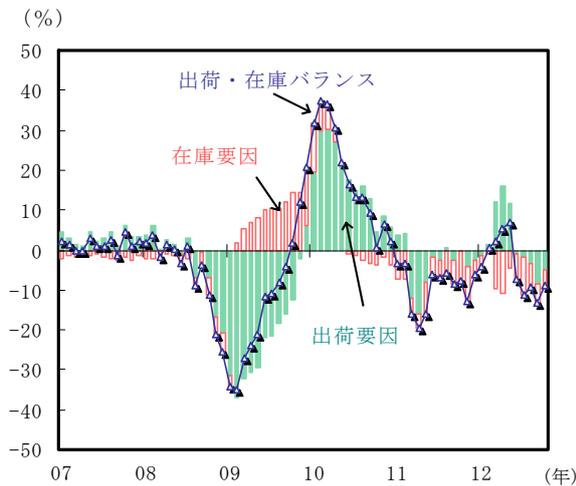


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の生産指数(季節調整値)

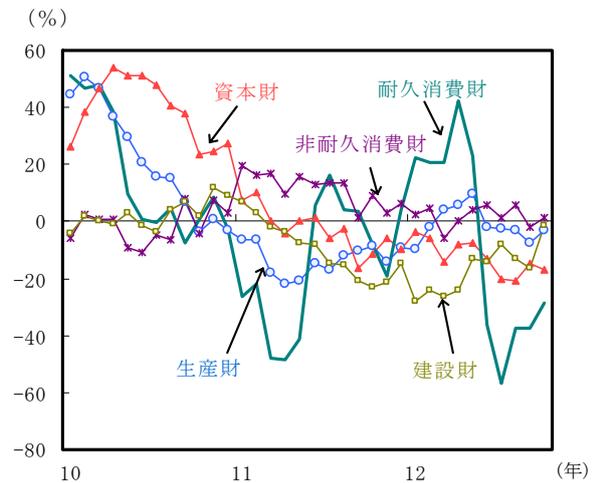


鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス

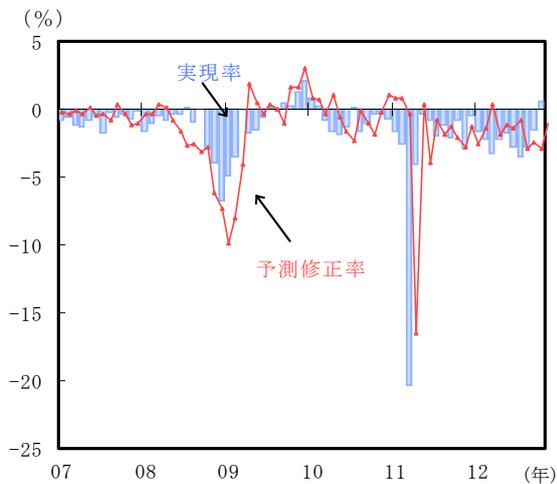


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の出荷・在庫バランス

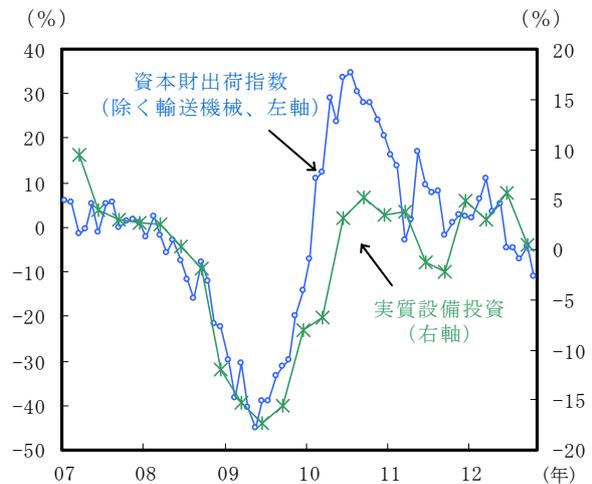


予測修正率と実現率



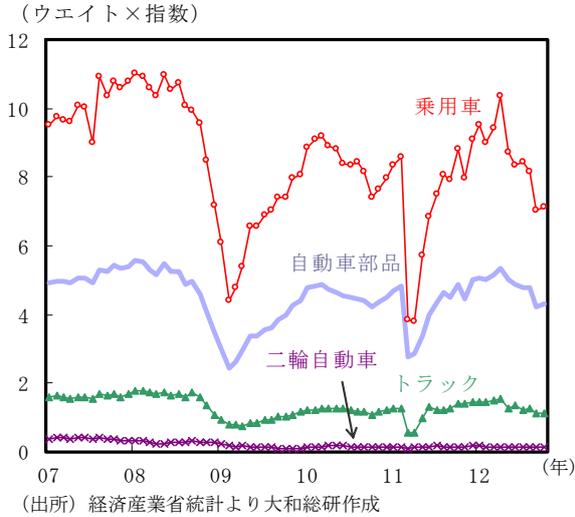
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)

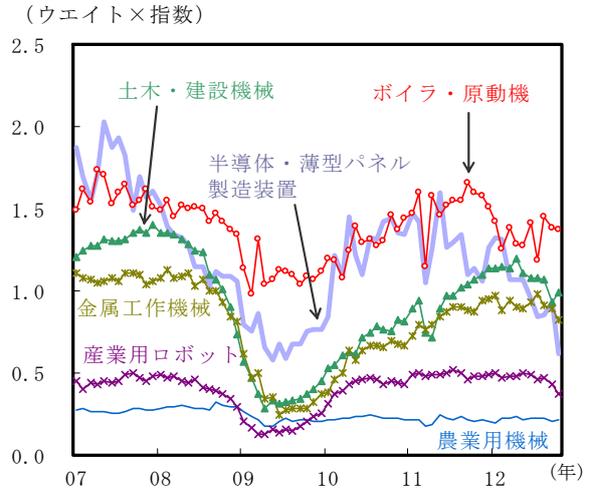


主要産業の生産動向(季節調整値)

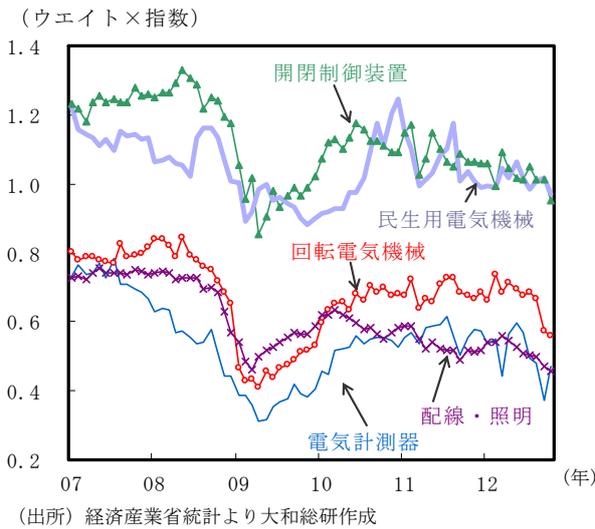
輸送機械



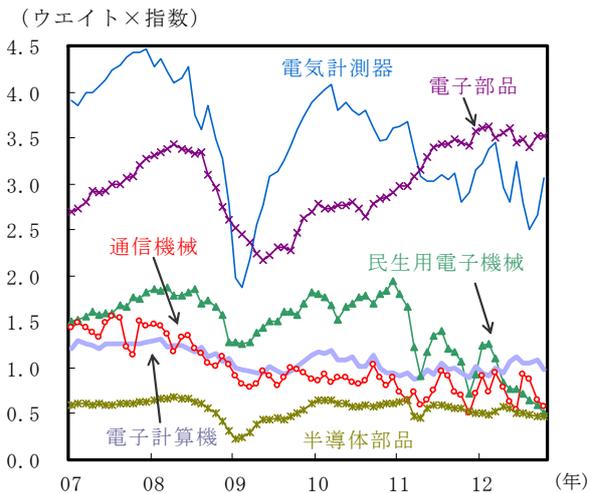
一般機械



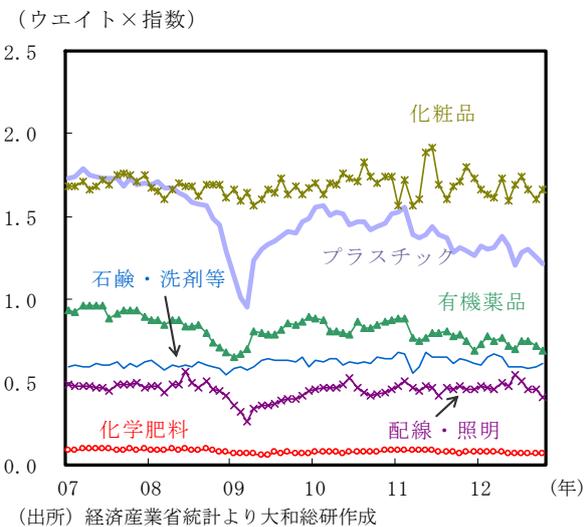
電気機械



電子部品・デバイス・情報通信



化学



鉄鋼・非鉄・金属

